

北丹陸上競技協会 最近 10 年のあゆみ

北丹陸上競技協会 理事長 高橋 尚義

1 近年の活動状況

北丹陸上競技協会は、京丹後市・与謝郡伊根町・与謝郡与謝野町を統括する陸上競技協会として、2007（平成 19）年 4 月に岩滝町陸上競技協会から名称を変更。以後、地元行政をはじめ、高体連、中体連とも積極的に連携強化を図るなかで幅広く活動を進め、管内地域の陸上競技の普及強化に努めてきた。

とりわけ、2012（平成 24）年から日本陸上競技連盟公認第 3 種陸上競技場の整備に向けて活動し、2020（令和 2）年にはその実現に結び付いたこと。また 2013（平成 25）年にウルトラマラソン公認レースを実施、そして同年、近畿高校駅伝と関西学生駅伝の管内開催が実現し、地元の陸上競技協会として内外にその存在感を示す機会ともなった。



京丹後はごろも陸上競技場

（写真提供：公益財団法人 京丹後市公園緑化事業団）

(1) 京丹後はごろも陸上競技場のリニューアルオープン

2020（令和 2）年 10 月 1 日にリニューアルオープンした「京丹後はごろも陸上競技場」。京都府北部では唯一の日本陸上競技連盟公認第 3 種陸上競技場（公認日：2020（令和 2）年 9 月 24 日）であり、全天候型 400m トラック（8 レーン）で、水濠も併設され天然芝のインフィールドを有する。また新たに、写真判定室及び写真判定装置、電子音スタート発信装置なども整備・導入され、10 月 3 日にはそれまでの第 4 種競技場をリニューアルしての整備完成を祝い、国会議員、京都府、北部 2 市 2 町、そして京都陸協と



2020（令和 2）10 月 3 日完成式典でのテープカット

市郡陸協からの関係者約 80 人出席のもと、京丹後市峰山途中ヶ丘公園において完成式典が開催された。

この経過に若干触れておく。さかのぼること 2012（平成 24）年 6 月に京丹後市体育協会と、加えて同年 8 月からは京丹後市商工会と京丹後市観光協会と連携し、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の整備充実（日本陸連が公認する第 3 種競技場化整備）に向けて、広く署名活動をスタート。その結果、多くの署名協力を頂戴し、2013（平成 25）年 2 月 6 日には 8338 名分の署名とともに京丹後市長へ要望書を提出。その後、しばらくの検討期間をおきながらも整備に向けて着実に議論を進め、2018（平成 30）年 7 月には京丹後市において正式に整備着手がなされ、2019（令和元）年 6 月には整備工事が本格スタートして、2020（令和 2）年 9 月に完成を迎えた。

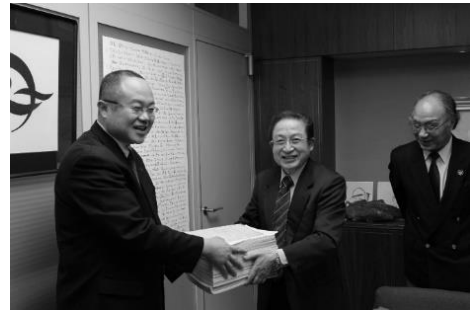
この間、京丹後市、京丹後市教育委員会、京都府、京都府教育委員会、京都陸上競技協会をはじめ、関西学生陸上競技連盟、京都府高等学校体育連盟、京都府中学校体育連盟、府内市郡陸上競技協会や、京丹後市体育協会（現・京丹後市スポーツ協会）、京丹後市商工会、京丹後市観光協会（現・京丹後市観光公社）等諸団体の関係者の皆様にはさまざまなご支援やご協力、また励ましの言葉を頂戴し、また地元国会議員、京都府議会議員、京丹後市議会議員の皆様にもご尽力を賜り、無事完成を迎えられたことについて、この場を借りて深く敬意と感謝、そして御礼を申し上げる次第である。

北丹陸上競技協会では、この競技場の完成により、2020（令和 2）年 10 月に開催した「2020 年度第 1 回北丹陸協記録会」から独自に Wi-fi 環境を整え、記録速報専用公式ホームページの運用を開始。さらに、2022（令和 4）年 4 月からは、MAT 株式会社の陸上競技大会運営システム「Athle32」を導入しての競技会運営を開始し、すでに 2012（平成 24）年 5 月から運用している北丹陸上競技協会公式ホームページに掲載している主催競技会の案内や大会結果記録などと併せ、リアルタイムでの情報発信に努めている。

また同時に、看護師資格を持つ公認審判員の参加により、2020（令和 2）年 11 月から主催競技会にメディカルステーションを常設。コロナ禍の中での競技会開催、また熱中症対策など競技会運営において近年特に注意すべき課題対応に努めながら、役員一同、常に進化・発展する意識を持ちながら活動を進めているところである。

（2）協会の存在感を示す機会となった 3 つの競技会の開催

2011 年（平成 23）に自転車計測による検定を実施し、日本陸連公認の長距離競走路となった 100km コースにて 2013（平成 25）年 9 月、第 13 回歴史街道丹後 100km ウルトラマラソンが開催され、100km 公



中山泰・京丹後市長（左）に署名を手渡す京丹後市体育協会の伊東会長（当時）と太田勲・北丹陸上競技協会会長（当時）



京丹後はごろも陸上競技場完成式典（2020（令和 2）10 月 3 日）に併せ、北丹陸上競技協会・太田勲会長（当時）に対する日本陸上競技連盟秩父宮章伝達式を開催。あいさつされる京都陸上競技協会田中セツ子会長（当時）

認レース（陸連登録の部）を初めて実施。陸連登録の部は男女 82 名、一般の部も約 2100 名が出場した大会となった。結果としてこの時限りの公認レースとなったが、府内市郡陸協にも多大な理解を得て、多くの公認審判員の協力を得て開催できたことは、北丹陸上競技協会としても貴重な経験であり、現在においても記憶に残る重要な財産となっている。

また続く同年 11 月には、男子第 64 回女子第 29 回近畿高等学校駅伝競走大会（京丹後市網野町アミティ丹後フィニッシュとする特設コース。以後、2015（平成 27）年までの 3 年間開催）の開催、その翌週には、2004（平成 16）年まで丹後半島コースで開催され、その後滋賀県に転出していた関西学生対校駅伝競走大会が再び丹後半島コースに戻り、第 75 回大会が開催された。

これら 3 つの大きな競技会がこの年に集中しかつ連続して開催され、北丹陸上競技協会もそれぞれの競技会主催者の京丹後市、京都府高等学校体育連盟、関西学生陸上競技連盟とも連携して実施にあたったことにより、さらに強い協力関係が生まれたことの意義は大きい。現在に至っても、丹後 100km ウルトラマラソンの支援、関西学生対校駅伝競走大会の運営協力を主として担っているところであり、さらには 2021（令和 2）年からは、京丹後市に在住、在勤、在学者を対象とした「京丹後市民陸上記録会」も京丹後市からの依頼により主管し、強固な信頼関係、協力関係が構築できているところとなっている。

(3) 協会の現況

北丹陸上競技協会は、7 つのクラブに加えて小学生を中心とした 10 の陸上教室を組織している。2023（令和 5）年 8 月現在では、社会人、高校生、中学生で 150 名が登録し、また 2023（令和 5）年度から小学生登録が始まったことにより、加えて小学生 10 名が登録して総勢 160 名による活発な活動となっている。このうち、125 名が公認審判員資格を有し、京丹後はごろも競技場で実施される年間 20 回程度の競技会の審判にあたり、地域の活性化と発展に寄与しているところである。

さて 2020（令和 2）年に入り、新型コロナウイルス感染症が世界的にも猛威を振るい、国内では度重なる緊急事態宣言や蔓延防止措置の発令により、2020～2021 年度は予定していた多くの競技会が中止・延期とされるに至った。こうした中で、北丹陸上競技協会では 2020（令和 2）年 8 月、主催者・競技者ともに安全安心に競技会を開催できる環境整備を図るため、日本陸連等のガイドラインに基づく危機管理体制等を規定した「北丹陸協・新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル」を策定。その後の政府対策の改訂にも対応し、このマニュアルを随時改訂し、競技会開催にかかる感染症対策にあたってはこれを大い活用し目安としながら、安全安心な競技会運営に努めてきたところである。

2023（令和 5）年に入り、感染症対策についても一定の区切りが見えた中で、日本陸連の「陸上競技会開催のガイダンス」が一般の感染症を対象として改定されたことにより、4 月に「北丹陸協・新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル」は廃止した。

2 主要競技会の概要

(1) 北丹陸上競技選手権大会

この大会は、前身である岩滝町陸上競技協会の創立を機に 1956（昭和 31）年に第 1 回を開催し、1988（平成 10）年の第 33 回大会からは、日本陸連第 4 種競技場で開催。京丹後はごろも陸上競技場となった 2021（令和 3）年の第 54 回からは「北丹陸上競技選手権大会」に改称し、参加者要件も京都府内

に限定せず実施。また第 55 回大会からは 2 日間での実施とし、大阪府、兵庫県、東京都の登録者など約 500 名が参加し、数多くの新記録も続出するなど、大いに盛りあがりを見せている。

(2) 北丹駅伝競走大会

この大会も 1956 (昭和 31) 年に第 1 回を開催し、2010 (平成 22) 年の第 54 回大会からは、丹後あじわいの郷 (現・丹後王国食のみやこ) へ会場を移し、さらに 2022 (令和 4) 年の第 65 回大会からは、京丹後ほごろも陸上競技場をスタート・フィニッシュとする男子 6 区間 19.0km、女子 5 区間 12.5km 特設コースへと移して実施。第 65 回大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく大会を中止するも、第 66 回大会には、立命館宇治高校、桂高校、京都外大西高校、亀岡中学校など府南部地域からのエントリーもあり、4 年ぶりの駅伝開催となった。感染症の影響から徐々に脱却する流れの中で、地元行政をはじめ、地元住民の方々にもご理解ご協力をいただきながら、今後も引き続き開催をめざすこととしている。

(3) 北丹陸協記録会

この大会は、日本陸連公認第 3 種となった京丹後ほごろも陸上競技場のリニューアルオープンを契機に 2020 (令和 2) 年 10 月に創設実施している。2020 年度第 1 回記録会は、コロナ禍にあり、全国的に競技会の開催ができない中で、関西・中京圏、遠くは関東、九州圏から、総勢約 750 人のエントリーがあり、大変な盛り上がりを見せた。2020 (令和 2) 年度は年 2 回、2021 (令和 3) 年度以降は年 4 回の記録会を開催し、管内選手をはじめ、この地域から日本を代表するアスリートが継続して誕生する環境づくりの一環として毎年実施している。

(2021 年度第 1 回記録会は、緊急事態宣言が発令され、施設休止のため記録会は中止)



(4) 丹後小学生陸上競技大会

この大会は、1984 (昭和 59) 年に「与謝郡小学生陸上競技記録会」としてスタートし、岩滝・野田川・加悦クラブの輪番で主管してきたが、1995 (平成 7) 年第 12 回大会から「与謝・丹後地方小学生陸上競技大会」として途中ヶ丘運動公園で開催。2006 (平成 18) 年の第 23 回大会からは、「丹後地方小学生陸上競技大会」。さらに京丹後ほごろも陸上競技場となった 2021 (令和 3) 年の第 37 回からは「丹後小学生陸上競技大会」に改称し、丹後 2 市 2 町の小学 3 年生以上が参加する恒例の大会として発展している。

2018 (平成 30) 年 6 月の第 35 回丹後地方小学生陸上競技大会大会で、三崎政直・京丹後市長 (当時) から第 3 種競技場としての改修の話題提供とともに選手へ激励挨拶 (改修前の競技場)

(5) 京都府北部小学生クロスカントリー・リレー大会

この大会は、2000（平成12）年に峰山途中ヶ丘公園内の芝生コースを走り、4名でタスキをつなぐクロスカントリー・リレー大会としてスタートし、その後、2010（平成22）年の第11回大会からは丹後あじわいの郷（現・丹後王国食のみやこ）の園内コースに移したが、京丹後はごろも陸上競技場となった2022（令和4）年の第22回からは「京丹後はごろも陸上競技場内コース」に移し、「京都府北部小学生クロスカントリー・リレー大会」に改称し小学3年生以上の出場により実施している。

(6) 海の京都 KIDS U-13 陸上競技大会

この大会は、京丹後はごろも陸上競技場のリニューアルオープンに併せ、2021（令和3）年に創設し、実施している。参加対象は、京都府内だけでなく、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、福井県、鳥取県の小学生とし、2023（令和5）年の第3回大会には、京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、和歌山県の小学1年生から6年生総勢366名のエントリーがあった。大会開催を重ねるごとに大会の認知が広がり、小学生を対象とした夏休みの大会として定着しはじめているところである。



2023（令和5）年8月6日開催の第3回海の京都 KIDS U-13 陸上競技大会の光景。猛暑によりグラウンドコンディションも気温41度を記録する場面があった

(7) 京都府北部小学生クラブ陸上記録会

この大会は、管内小学生陸上教室を対象に、陸上指導を兼ねた「陸上教室兼小学生陸上記録会」としてスタート。第14回をもって陸上教室併催を終了し、2012（平成24）年の第15回大会から「小学生陸上記録会」を独立させて実施。2018（平成30）年の第21回から参加対象を「府北部地域」に拡大。第22回から「京都府北部小学生クラブ陸上記録会」に改称して実施している。

3 選手育成・強化・普及活動

(1) 小学生陸上教室

2023（令和5）年4月現在、管内には、京丹後市内5教室、与謝郡（与謝野町・伊根町）内5教室が活動中。基本動作の習得等陸上競技の普及、競技力向上及び指導者の育成を図ることを目的に、通年で毎週特定の曜日（各教室によって異なり自由度がある。）に開催されている。対象は、小学生3年～6年生（教室により1年生～6年生）で、京丹後市内、与謝野町・伊根町の小中学校・高等学校及び京丹後はごろも陸上競技場にて実施されている。

(2) 小学生陸上競技教室指導者連絡会議

管内小学生陸上競技教室指導者を対象とした連絡会議を2021（令和3）年4月に設置。各教室の運営に関する事項、陸上競技会、強化練習会、小学生指導者講習会等に関する事項など、お互いの情報を交流することがねらいで、毎年5月に定例会議を開催している。

(3) 北丹陸協 U-13 研修会

管内小学生を対象に、京丹後はごろも陸上競技場を利用した練習機会の創出のため、2021（令和 3）11 月 21 日にゲストアスリート（神奈川県・熊本国体出場 泉山雄太氏）を迎えて開催したことをきっかけとして以後、管内小学生の陸上競技に関する興味・関心・理解を高めると共に体づくり、競技力向上に寄与することを目的に、毎年春、秋の年 2 回をめぐりに京丹後はごろも陸上競技場などを会場として開催している。

(4) 北丹陸協指導者研修会

管内陸上競技指導者を対象に、2022（令和 4）年度から毎年 1 回程度、トレーナー技術の学びを目的に開催している。内容は、専門家を招聘した座学と軽い実技が中心。これまでには、オーバーユースを主な原因とする成長期スポーツ傷害について学ぶなど、陸上競技に携わる指導者の技術指導力の向上および知識の向上を医学的側面から図るものなど。また、怪我の予防と競技力を高めるための動きづくり・体づくりの方法について学ぶなどしている。

(5) 京丹後はごろも陸上競技場開放事業

北丹陸上競技協会が京丹後はごろも陸上競技場を借り上げ、管内小学生陸上教室・クラブ対象と、管内中学校及び両丹地区高校対象とに分け、小学生陸上教室・クラブ又は中学校・高等学校の練習会を行われる場を提供しているところである。

この取り組みは、同一時間・同一場所でそれぞれが練習を行うことにより、時には教室・クラブの垣根を越えて一緒に練習する機会となったり、また指導者同士の交流によって指導技術の向上に寄与するなどの効果を期待して実施しているものである。とりわけ、高校指導者が中学指導者とともに、高校生・中学



2023 年 6 月実施の中学校・高等学校対象練習会風景

生へ指導し、高校生が中学生をサポートする形態となっており、今後も継続してこうした機会を増やしていく必要があると認識しているところである。

管内小学生陸上教室・クラブ対象は 2022（令和 4）年度には年 6 回開催し、延べ約 100 名の参加。中学校・高等学校対象は、2023（令和 5）年度から開始し、これまで 6 月までに 2 回開催し、延べ約 250 名が参加している。

(6) 京丹後市小学校体育連盟陸上運動指導者研修会への講師派遣

近年、京丹後市内の小学校教諭を対象に小学生への陸上競技指導等に関わる専門種目のコーチ指導、ルール指導を開催し小学生の陸上競技指導体制の強化活動をしている。